

# 大阪盛り上げ隊 第1回ミーティング 議事録

2015年7月13日(月) 19時～21時  
認定NPO法人 大阪NPOセンター5F会議室  
進行：神藤 書記：有迫(敬称略)

(以下、敬称略)

## 1. 開会

大阪盛り上げ隊アドバイザー・神藤より開会の挨拶が行われ、ミーティングが開始された。

## 2. 資料確認

次に配布資料の確認が行われた。配布資料は下記3点となった。

- ・大阪盛り上げ隊・第1回ミーティング次第
- ・大阪盛り上げ隊・ミーティング資料冊子
- ・アートウェイ大阪2・A4チラシ広告

## 3. 大阪盛り上げ隊 メンバー紹介

今回は割愛。「6. 参加者紹介」にて、メンバーを含め全員の挨拶に変更となった。

## 4. 代表挨拶

大阪盛り上げ隊 隊長・石野より挨拶。

『面白い事をやろう』という事からこのイベントが発端となった趣旨と、現在のイベントの取組み状況や大まかな概要の説明が行われた。その中で「社会貢献の為のイベントではなく、イベントが結果的に社会貢献になるような、イベントを目指した事業として行いたい。最初は皆様のご協力を得て、資材や技術の持ち出しなどもあると考えられるが、近い将来、イベントを通して参加して頂く方々にもメリットが見いだせる様な、また継続し続け拡大していく事を目標にしたい。今後、他団体のイベントの先駆けになるような、モデルケースになれるようもしたい。」と意思表示も行われた。

## 5. 来賓紹介

西成区民センター・松本様よりご挨拶を頂いた。

## 6. 参加者紹介

～順番に～(敬称略)

佐原(大阪盛り上げ隊 副長)・西村(大阪盛り上げ隊 副長)・有迫(大阪盛り上げ隊 隊員)・前橋(大阪盛り上げ隊 アドバイザー)・堀田(大阪盛り上げ隊 アドバイザー)・藤江(プロレスリング紫焰)・建山(ウェブレイス代表)・間柴(はびねすドッグ代表)・千葉(NPO 法人ますくまんず)・林(NPO 法人ますくまんず 代表)・須貝(みのお市民活動センター)・堀野(大阪NPOセンター事務局長)・榮(大阪NPOセンター)が挨拶を行った。

楠田(今里フォークジャンボリー)・松本(NPO 法人ますくまんず)・山本(大阪盛り上げ隊)の3名、諸事情により遅れる為到着次第参加者紹介を行った。

# 大阪盛り上げ隊 第1回ミーティング 議事録

## 7. ディスカッション

大阪盛り上げ隊 副長・西村がディスカッションに先立ち、再度挨拶を行った。

「個人的な話ですが、Asobo!会を2011年に立ち上げた。東日本大震災の募金活動から始まり、その場でバルーンアートをやっていると仕事の依頼も来るようになった。色々なイベントや集まりにも顔出しをしているが、その中で地域の顔出しをしている若い人が少なく、また場に入り難い状況となっており、これを打破し地域の中で居場所を見つけてほしいと思い活動している。

どうすれば若い人が活動場所に来れるのか？仕事が忙しい中、中々地域の活動に入る事が出来ず、また自身へのメリットが見えず、高齢者も多い為“溝”が出来つつあると思っている。その為、地域活動をする事自体が盛り上がり、一人一人の力を合わせて何かをやればとも思っている。

今イベントでの良いディスカッションが楽しく出来ればと考えており、ざっくばらんにやればと思っている。まずは、話を盛り上げてミーティング自体も成功出来ればと思う。」

西村挨拶後、企画書の説明を元にディスカッションが開始された。

企画書を元に、大阪盛り上げ隊隊長・石野の考えとしては「昭和の学祭の様なモノをやりたかった。それが社会貢献につながればと考え《NPO 法人ますくまんず→大阪盛り上げ隊》を発足した。

また、今回は西成区民センター様の多大なる協力もあり、この場所を全部使ってイベントが開催できることになった。ただ、社会貢献や福祉の為だけのイベントや、言葉だけのWIN&WINではなく、双方が求めるWIN&WINを追求できる、そして、自分たちのやりたい事を実現してそれぞれのWINを実現して頂きたい。企画段階からいろんな色を塗る人を集めたのが今実行委員会開催の理由である。」と説明があった。

今回の実行委員会での議案事項として、

- 今後のスケジュール案について。メインホールを使って何をするのか？
- 実際にどういう事をやるのか？
- イベントの為の構成・組織の決定。

上記3点が今回のディスカッション内容として紹介された。

補足説明として、現時点では西成区民センターの使用が2016年3月以降はどうか不明。理由として、区民センターの管理指定業者が継続するか現在不明な為、次回以降のイベントを継続して行えるかも不明となっている為。また、管理指定者継続が条件ではあるが、次回開催を2016年7月を予定している、という説明があり、今回のイベント1回で終わるのではなく、継続し今後様々な場所での開催目指した今後の流れも作って行きたいという意味があるという事も説明された。

# 大阪盛り上げ隊 第1回ミーティング 議事録

## ディスカッション 1. 「イベントで何をやりたいかの考えの共有」(敬称略)

### ●誰を主体、どの層をターゲットを絞っているか？

石野：子どもからの繋がっての親

西村：地域の子どもや若者世代。実行する側も若者世代が主体に関わって欲しい。

### ●手作り市やプロレスラー等を掛け合わせて何かをしたい。

リングは、リング場にかかる事や、パフォーマンスの舞台としても使いたい。

開催地域で商売している人達の参加を促す(例：地域の開業医による子ども向け無料検診)

### ●各メンバーのイベントでやりたい事について

西村：大人もワクワク出来る、色んな人が楽しめるイベントがしたい。

”何故、この場所で、コレをしたいか”この内容を考える必要がある。

民間だからこそ出来る事をイベントイメージとして共有し、夢を聞きたい。

間柴：イベント会場には犬連れていけない。犬がかわいそうではなく、犬に対してアプローチする方法や接する方法等、教えられる事をやりたいと考えている。しつけ教室もありだが、駐車場なら動物がOKとの事だが、犬の体力的にも難しい。

堀田：コンセプトは”面白い事がしたい”。趣旨も”面白い事”これでいいと思う。また、色んなダンスを出せるといいし、小難しい事を考えなくてもいいと思う。”社会貢献”は奉仕のイメージがあるが、古いイメージだ。どちらかと言うと共感やお互い様というイメージで、明確にメリットがあるわけではないが、この事を作る事が良いと思われる。そこで皆が笑い、主催者もお客様も楽しめるといい。皆巻き込んで、楽しい場所を作る。例えば、音楽。私が主催しているフォークソングイベントは、趣味でされている方々の発表の場があまりなかった。そこで、イベントを始めると「こんなところがなかった！」と喜んで頂き、人が集まり他の演奏者や観客が続々と増えてきた。70年代フォークは50代以上が殆どで、趣味の音楽を見せる場を作る事も社会貢献だと感じた。

藤江：お祭りやイベントに行ったら何か楽しい事があれば、と思う。あまり個人的に行った事がなく、雰囲気もよく分かってはいないが、どうなっていくのかと客観的な楽しみもある。

建山：娘が小学生で、今PTAの役員をやっている。PTAが主導でイベントを考えているが、先生や色んな人と相談している。秋にでもプログラミングのプチ講習会をやろうと思っている。この様な事に近いモノをやれば面白いかと思うが、PC等機材集めが難しいがやってみたい。イベント来場者はどんな面白い事が出来るのか、とも思うが、チラシでは伝えにくく、実際に来ないと面白いかわからない。そこで、子どもが対象であれば、事前にイラストコンテスト等で来場の動機づけをするのはどうか？近隣小学校等で事前投稿をし、表彰式をイベント内でやるのはどうか？現状、小学校の繋がりはないが、PTAは全て上層団体があるので、そこで繋げて貰うのはどうだろうか。他の案として、会議室で段ボールの屋台を作らせて、子供だけの市をやるのを面白いかもしれないが、導線をどうつなげるかが問題。しかし、保険会社が主催するイラストコンテストは、表彰だけだが駅前から人が並ぶ程人が集まっている。

# 大阪盛り上げ隊 第1回ミーティング 議事録

須貝：Q's モールでも人をどうイベントで巻き込むかが問題となっている。Q's モール箕面は若い世代の家族が多く、ターゲットをどこに絞るかを店舗といつも話し合っている。先程出たイベント会場周辺の学校や地域と連携を取り、子ども専用の部屋を作るのも面白いかもしれない。

石野：8月に西成区民センターで「Art Way OSAKA 2」というイベントが開催される。知人に聞いてみると、殆どが「西成って危ないんじゃないの?」と言われる。実際は全然危なくないが、偏見があるので、ここに注目したい。「安心して子どもが遊べる場所です。西成って大丈夫!」と思わせる事で、人が集めれる事が出来ればと思う。

林：西成に来ている外国人にインタビューしているTVを観たが、西成はバックパッカー達に人気があるようだ。訪問中の外国人も参加出来て、楽しめる事をあればいいかも知れない。また、地元の大学やボランティア団体等で情報を聞いてみても良いかと思う。

石野：釜ヶ崎で生活保護の高齢者向けサロンの喫茶店をしている知人がいるが、西成でイベントをやる以上、あいりん・飛田・釜ヶ崎はイメージを悪くしている元凶と考える人が意外と多い。しかし、先程のバックパッカー達もそのエリアを中心に活動しているが、このエリアの人達と繋がる必要性を模索する必要があるかもしれない。

松本：西成は怖いという話しをよく聞くが、西成にもキレイなギャラリーや喫茶店も多くある。「Art Way OSAKA」を使って、西成にも面白い事や普通な所があると若い人にイメージ付かせたいと思っている。

西村：西成を知り、良い所もあると認めてもらいたい。評価だけでなく、そこで色んな面白い事やって、自分がやりたい事をやる場所を作る。西成でやりたい事をやって、イメージを少しでも変えれば、社会貢献も出来ると思われる。

建山：今回の趣旨は大阪。最初は西成だが、周辺エリアも関わってくる。周辺の区やエリアを巻き込んだイベントにしてもいいと思う。今私は浪速区民だが、ほぼ西成と一体化した状態なので、一緒にやっても良いとは思っている。

神藤：西成というエリアでも大阪でも、結局”地域振興”が答えだと思う。例えば、西成でイベントを実施するなら地域周辺の地域振興。これは箕面でも一緒である。イベントとしてのターゲットは?子どもでも大人でも多く人に来て貰う為の手法は?ある程度は子どもにターゲットに絞るべきか?このイベント自体の趣旨は?と問いかけられた際に、答えは”地域振興”ではないだろうかと思う。

石野：最終的には事業として捉えたいが、今回偶々集まった人達は、NPOや地域貢献してる人達だ。イベント会社でも行政でもない。イベントを運営する本人も来場者も楽しい事は最低条で、そうで無ければ絶対に繋がらない。また、収益がないと継続も難しい。まず分類分けをしないとけない。

# 大阪盛り上げ隊 第1回ミーティング 議事録

堀田：イベントに訪れる為の目的が必要。“地域振興”それだけではない。西成から始まるので、“西成 DASH”。次に箕面でも鶴橋等に対しても、パッケージをある程度固めて持って行く方が持って行きやすい。どれだけ人を集めれるか、来場者を如何に主役に出来るかの仕組みを作ることも必要だと思う。

神藤：どのようにして資金を集めるのかも問題だ。この事が出来ないと面白いイベントの開催が難しく、現時点では理由付けが全くない。第1段階の目的は絶対に必要だ。地域によって子どもや高齢者等、ターゲットをその都度切り替えても良いと思われる。

～ 一旦休憩 ～

神藤：大体の大きな流れとして、“地域振興”が決まった。ターゲットが明確になっていないので、決めたいと思う。この事を踏まえて、皆様が何をやりたいかをドンドン意見を言って欲しい。

堀田：子どもが主役になるイベントではないと家族は付いてこない。子どもを主役にする企画が必要。ショッピングモールも一緒に子どもが遊べる場所・親や老人も楽しめる事が必要。

楠田：他団体でオリジナルのお化け屋敷を行っている所がある。そういった面白い事をやっている 別団体呼び、スペースを使ってもらうのもいいかも知れない。

須貝：子ども達が楽しめるコンテストや参加できるイベント等に景品等を出すと面白くて、参加するのではないだろうか？客寄せの為には著名人の審査員が必要だと思うし、自ずとスポンサーも呼べるのではないかとと思われる。

松本：西成区ジャガピー（西成区のキャラクター）のイラストコンテストを行ったが10人しか投稿がなかった。景品も付けたが、予想よりも少かった。また、表彰式もやったが表彰式にも殆ど人が来なかった。台風という状況もあったが、やはり殆どの方が知っているアイコンは絶対に必要だと思う。

佐原：自分達は全ての場所に人が動いてくれる動線をつなげたい。部屋によっては、プロレスラーが行うエクササイズ教室をやってもいいかもしれない。また、バックドロップ等技をかけれるイベントもありだと思う。

間柴：イベント内では、自分達の活動に繋がる事をしたい。イベント会場に犬を連れていけないのでプロマイド写真等のパネル展等で広報したい。

建山：何やるかを一旦置いて、他団体がやっている事に「サクサクプロジェクト」というのがある。それは、また別の団体に会議室を丸ごと一つ貸すから何かやってよ、というものだ。今イベントでも、一区画を他の団体に渡し、例えば3Dプリンターを使ってみたり、VR スコープの体験場所等の普段で出来ない事を行っている人達に任せるのもどうだろうか。

# 大阪盛り上げ隊 第1回ミーティング 議事録

前橋：自分がやりたい事は子ども集まって頂ければ良い。紙すきは人がいれば体験できる。

紙すき自体をパフォーマンスとして使える為、色んな方法で絵画等を作る事も、場所もメインホールや会議室等どこでも出来る。臨機応変に対応する事が出来るが、リング場の使い方がすごく印象があるし、そこで何かやれないか？とも思う。

石野：空いている会議室をお母さん達向けのワークショップや〇〇教室みたいなことで、丸ごと使うのはどうだろうか？ワークショップや体験会等、参加する人は多いとみている。

千葉：リングステージで、演奏する人も面白いかもしれない。生カラオケ大会の様な参加型イベントを実施してもいいかと思う。

藤江：イベントでオリジナルマスクを作ってみるのもいいと思う。皆で作るマスクマンみたいなのも作ってもいいかもしれない。先程の話のコンテストで、子ども達がマスクをデザインしてイベントでデザインしたマスクを使った選手が出て戦うのも面白いと思う。

前橋：過去に絵画コンテストですごく人が並んでいた。それは参加賞をもらえる人も多く、優秀な人は東京に行く事が出来る。佳作も何百人もいて、表彰してもらう事に子どもが楽しめていた。

堀田：メディアでの宣伝戦略に乗るのが一番いいが、お金がかかる。

先程の成功例は小学校だけの公募で、そこまでイベントが大きくなっていった。

建山：(個人的な繋がりとして) メディアは毎日新聞・Yahoo!を利用できる可能性がある。

堀田：過去、サクラクレパスのコンクールはメダルがもらえるというイベントでも人が集まった。

須貝：去年 Q's モールにて" キッズフェスタ" を行った。親は美味しいモノやきれいなものが欲しく良いモノという発想だったので、母親はネイル・子どもはフェイスペインティングを地域の人に協力して頂き実施した。イベントで人を集めるなら、前日までにモノを集めるコンテスト形式か、当日素材を置いたビルディング形式を行うかが必要ではないだろうか？景品目当ての子どもはまず居ない。子どもを呼ぶとすれば、母親が主導権を握っているのでここを抑える必要がある。

間柴：話が変わるが、喫茶店等の飲食できる場所が欲しい。可能だろうか？

石野：(保健所の食品衛生指導について説明) 保健所に喫茶店設置等に申請する資金に対してのメリットがあるのかどうか疑問点となっているが、お茶程度ならば問題ない。出来れば食べ物を出店させたいとは思っている。何らかの形で出さないとキツイかもしれない。また、露天出展等は経費が掛かっても採算が取れるのかも不明。出来れば、加工食品としての出展を募りたい。

神藤：お時間になりましたので、ここでディスカッションを終了します。

色々なご意見ありがとうございました。

# 大阪盛り上げ隊 第1回ミーティング 議事録

## 8. 次回開催日

次回以降の開催スケジュールについて説明が行われた。(詳細は配布資料参照)

メンバーのみの実行委員会にも、メンバー以外の方も任意で参加するの可能となった。

- 盛り上げ隊メンバーは8月10日にミーティング開催予定。
- 次回の全体ミーティング、9月14日はもっと煮詰めた話を行いたい。  
可能であれば次回以降、西成区民センターの会議室を使いたい。

## 9. 実行委員会体制および役割分担について

現在と、実行委員会の役職が決まっていないため、これをやりたいとい役割はあるか？

何かあれば、早めに連絡頂ければ役割分担します。

## 10. 質疑応答

堀田：今イベントに先立ち、プレイベントか何か出来ないか？

石野：考えます。また、今後 Q's モール箕面を何らかのイベントで使用させて頂く予定。支配人様は箕面も阿倍野も管理されているので、Q's モール全店舗でのイベントスペースを使ったらどうだと提案されている。今回の内容を纏めて Q's モール側に提案を予定している。

## 11. 閉会挨拶

神藤氏により、閉会の挨拶が行われ、今ミーティングは閉会となった。

閉会后、参加できる方で交流会が行われた。